

◆原稿募集◆

次号の締め切りは、6月30日です

コウノトリは会員の皆さんで作る機関誌です。たくさんの原稿をお待ちしています。1000字程度の「鳥との出会い」をはじめ、この「みんなのひろば」のような皆さんの身のまわりの出来事・紀行文・自然保護に関する主張等、400字程度にまとめていただければ幸いです。鳥信、カット、写真も大歓迎です。

原稿は手書き、ワープロ、電子メール、何でも結構です。電子メールのアドレスは、下のとおりです。（裏表紙のアドレスに投稿しないで下さい。）

hensyuu@mbp.nifty.com

初めての探鳥地

西宮市 田中四郎

兵庫県支部では初めての探鳥地、宝塚市石切山での探鳥会が開催され参加しました。石切山は昨年、地域住民の運動で都市再生機構から宝塚市へと譲渡され自然保全林として残った25ヘクタールです。

当日は早朝からの雪で集合時間には約5cmの積雪、石切山方面の路線バスは運休で中止の声も出ましたが、参加者の強い要望で徒歩で現地まで行くことになりました。雪中ハイキングのようで現地に到着。積雪約20cm!! その頃には雪も一時止み、ピンズイ、ミヤマホオジロが顔を出し探鳥会が始まりました。

山の遊歩道はよく整備されており歩きやすく、巣箱も多く掛けてありました。路上に、両脇の木々に、フェンスとあちらこちらにアオジ、ルリビタキ等が姿を見せ、なかなか前に進めません。そして吹雪の中、ハイタカ♂♀(番?)がハシブトガラスにモビングの光景に寒さも忘れ一同興奮状態。また、所々で大阪平野、池田、多田の街々が一望できホッとする時間も持てました。最後にはトラツグミも全員で見ることができ探鳥会は無事終了しました。四季を通して都会の近くでこれほど多くの野鳥が確認できる場所を大切に守って行きたいものです。何度も行きたいフィールドです。

胸の白いカワウ

明石市 金光 士(カミツ タシ)

2008年5月1日。明石市和坂1丁目の谷池です。この池は林と竹林に囲まれていて、近づくには東側1カ所、西側1カ所しかありません。ほとんど人が近づかず、カワウの天国です。ここにカワウの100羽ほどのコロニーがあります。日本野鳥の会兵庫県支部研究グループ奥野 俊博さんによれば、「カワウのコロニーは県内では少なく、谷池のほかには淡路島の大園島、赤穂の海浜公園、伊丹の昆陽池、揖保川河川敷、三田の千丈寺湖くらいです。日本海側には見つかっていません。谷



池は珍しい例かと思います。」とのこと。ここに首から胸にかけて真っ白なカワウが1羽いました。病気でしょうか？ 年をとったらこのように白髪になるのでしょうか？ 病気ならほかのカワウに遷ると危険です。どなたか、カワウについて詳しい方が居られましたら教えてください。コロニーの写真と胸が白いカワウの写真を添付します。常に居るとは限らないのですが、このところ、1週間ほど同じところにとまっています。

200mmの望遠レンズで撮影し、トリミングしたので写真の解像度はあまりよくありません。



上：カワウのコロニー 下：胸の白いカワウ



西播愛鳥会「鳥みにだより」から

◆**県立ゆめさきの森公園**（姫路夢前町）<http://www11.ocn.ne.jp/~csr-yume/>

新緑がまぶしい季節になりました。オオルリ、キビタキ、サンコウチョウ、ホトトギスの美声が楽しめます。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

■日 時 6月15日（日）9：00～

■集 合 「県立ゆめさきの森公園」駐車場

■持 ち 物 観察道具、筆記具、弁当、飲み物

■問い合わせ 森田さん（079-295-7753）

■「ゆめさきの森公園」への交通

●中国自動車道「福崎IC」から車で約30分 ●山陽自動車道「姫路西IC」から車で約20分

●姫路バイパス「中地IC」から車で約40分、「姫路西IC」から車で約30分

ホオジロ類のこんなところ…

見てみました

川西市 山村由美子

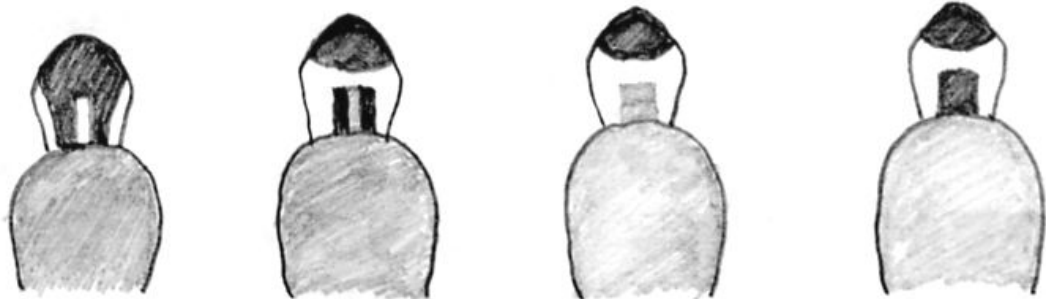
目の前に鳥が出た。じっとしている。しっかりと見えている。だけど、後ろ向きで何か解らない。こんな経験をされた方、多いと思います。

3-4年前の10月頃、私もこんな経験をしました。家の近所の畑で一群の鳥が飛び立った。何だったのかと思って、飛立ったあたりの地面を見ると、逃げ遅れた1羽がじっとうずくまっている。ホオジロ類の雌タイプなのはわかったが、ホオジロではない。カシラダカがミヤマホオジロ。識別点を思い出しながら見ていると、腰の部分はしっかり閉じられ

た羽の下で見えないし、羽色も赤みがあるようにも見えない。しばらく見ているうちに、なんだか首の真ん中に白い線があるのに気が付いた。あれっ、と思った瞬間鳥は振り向きもせず飛び立ち、疑問だけが残った。それから、後姿を捜してみたが、今度はそれほど都合良く後ろ姿を見せてくれるものではない。

そんな疑問が解け始めたのは、昨冬、ミヤマホオジロが餌をついばんでいるのを、遠くからスコープで見ながらだった。ちょこまかと動き回り色々な角度から観察できた。今冬にはカシラダカが枝に止まっている後ろ姿も見ることが出来た。

疑問は発見の始まり。時間はかかったけれど、わかった時の喜びは格別です。もう知っていると言われる方も多いと思いますが、こんなところ、報告したいと思います。



カシラダカ

茶→♂
黒→春季♂

ミヤマホオジロ♂

冠羽→黒
後頸→黒・グレイ・黒

ミヤマホオジロ♀

冠羽→茶
後頸→グレイ

ミヤマホオジロ？

冠羽→茶

(図は、印象に残った部分だけを強調しています。)



ミヤマホオジロについては、また、新たな疑問が出てきてしまったので、ご存知の方は、支部報への投稿などで教えていただければ本当に嬉しいのですが……。